

(11) 沖 縄



沖縄地域では、景気は弱いながらも回復の動きがみられる。

- ・ 観光は増加している。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況であり、持ち直しの動きが緩やかになっている。

前回調査からの主要変更点

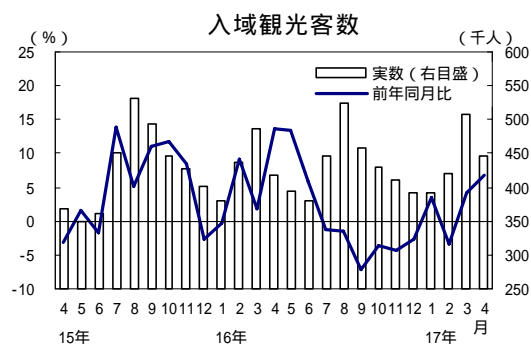
	前回（平成 17 年 2 月）	今回（平成 17 年 5 月）	
観光	おおむね横ばい	増加	
雇用	依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが続いている	依然として厳しい状況であり、持ち直しの動きが緩やかになっている	

1. 観光及び企業動向

(1) 観光は増加している。

入域観光客数は、1月、昨年運航された台湾からの大型クルーズ船の就航が後にずれただことから外国客が前年を下回ったものの、離島観光が好調だったことと、マスコミ等による沖縄の露出拡大により国内客は増加し、全体としては7か月振りに前年を上回った。2月は、前年がうるう年であったことや、前年に比べ休日数が1日少なかったこともあって前年を下回った。3月は、航空路線の増便や航空機の大型化から国内客が増加したほか、外国客についてもクルーズ船の運航が再開されるなど前年を上回った。4月は修学旅行生の増加、ゴールデンウィークの日並みの良さなどから前年を上回った。なお、1、3、4月は過去最高、2月は過去2番目の客数となっており、高い水準で推移している。

1～3月期における主要ホテルの客室稼働率については、新規ビジネスホテルとの競争の激化等から、リゾートホテル、那覇市内のホテルともに前年を下回った。



入域観光客数等の動向

(単位：千人、%)

	16年4-6月	7-9月	10-12月	17年1-3月
入域観光客数	1,195	1,427	1,230	1,320
(前年比)	10.9	3.3	3.5	1.4
ホテル稼働率(前年差)	0.7	6.4	7.5	3.4

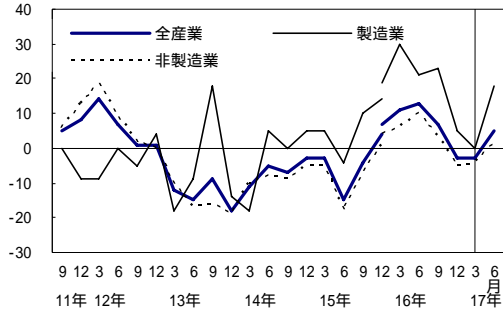
(備考) 1. 入域観光客数は沖縄県観光リゾート局調べ。

2. ホテル稼働率は日本銀行那覇支店調べ。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ横ばいとなっている。

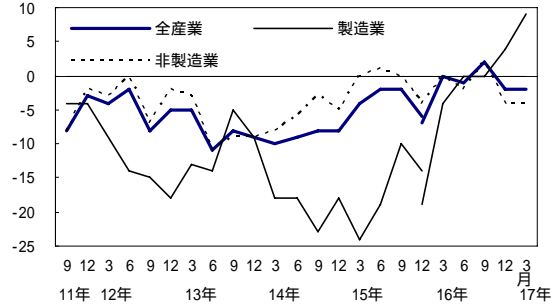
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



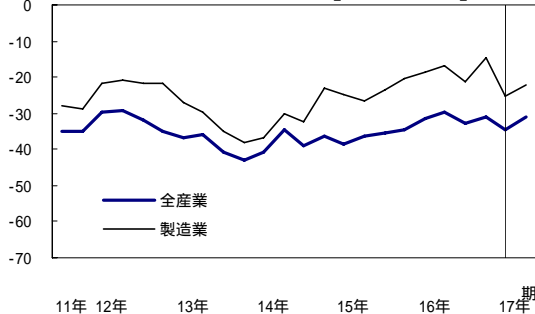
(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。17年6月は予測。
15年12月は新・旧基準を併記。

(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
15年12月は新・旧基準を併記。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断]



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。17年 期は見通し。
九州地区のD.I.

景気ウォッチャー調査(4月)[企業動向関連(現状)]

「リフォームの受注価格が上昇しているため、景気は良くなっている(建設業)」など、「良くなっている」とする回答が多くみられた一方で、「新規顧客の掘り起こしを開始したが、今月はまだ具体的な受注にはつながっていない(通信業)」など、「変わらない」とする回答もみられた。

(3) 16年度の設備投資は前年度を大幅に上回る見込みとなっている。

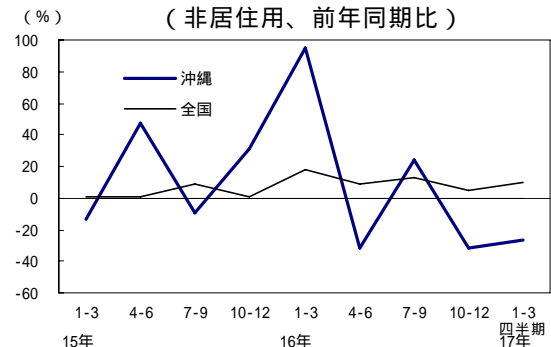
企業短期経済観測調査 [設備投資(3月調査)]

(前年度比、%)

	16年度実績見込み	17年度計画
全産業	23.0(1.7)	26.5
製造業	10.2(3.6)	19.4
非製造業	24.4(1.5)	31.0

(備考)()は前回(12月)調査比修正率。石油・電力を除く。

建築着工床面積
(非居住用、前年同期比)



2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

百貨店販売額、スーパー売上高、家電卸出荷額及びコンビニエンスストア販売額

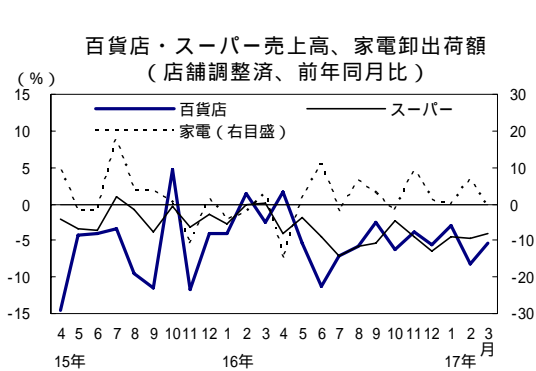
百貨店は、1月は大型スーパーの新規オープンの影響から前年を下回った。2月は、大型スーパーの影響に加え、前年がうるう年だったことの反動から前年を下回り、マイナス幅も拡大した。3月は、催事の好調により家庭用品が増加したものの、気温が低めに推移したことから春物の衣料品が振るわず、前年を下回った。

スーパーは、食料品が昨年のBSE(牛海綿状脳症)や鳥インフルエンザ(高病原性鳥インフルエンザ)の反動からやや前年を上回ったもの、気温の影響による衣料品の不振から、全体としては前年を下回った。

家電は、液晶テレビや、DVDレコーダー等のデジタル家電が引き続き好調なことで、異動などの新生活シーズンに伴う洗濯機や冷蔵庫といった白物家電の増加から前年を上回った。

景気ウォッチャー調査(4月)[家計動向関連(現状)]

「修学旅行の人数が増えている。中国への修学旅行を取りやめて、沖縄へと検討するケースがある(観光型ホテル)」など、「やや良くなっている」とする回答が多くみられた。



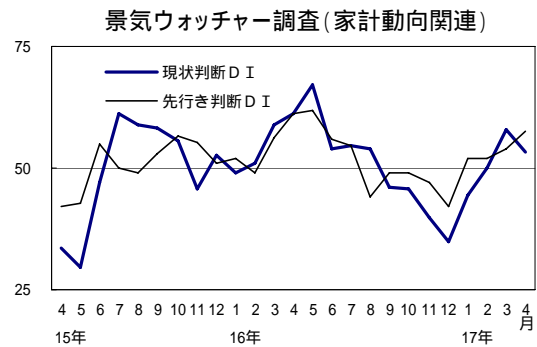
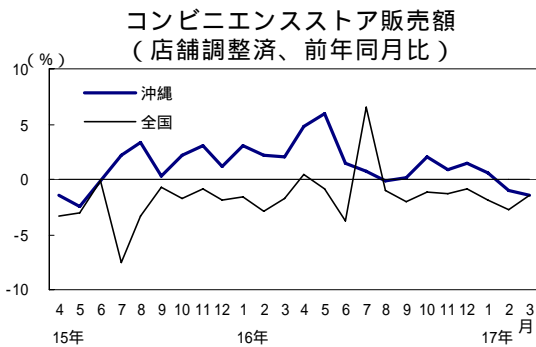
(前年同期比、%)

	16年4-6月	7-9月	10-12月	17年1-3月
百貨店	5.2	5.2	5.2	5.5
スーパー	3.5	6.1	4.6	4.4
家電卸出荷額	1.1	2.0	2.6	0.2
コンビニ	4.1	0.2	1.4	0.6
景気ウォッチャー	60.6	51.5	40.2	50.8

(備考) 1. 百貨店、家電は沖縄銀行調べ。

2. スーパー、コンビニは日本銀行那覇支店調べ。店舗調整済。

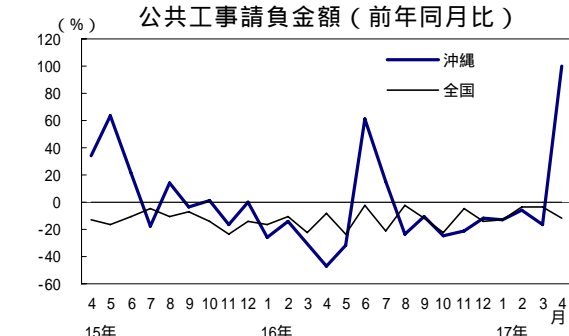
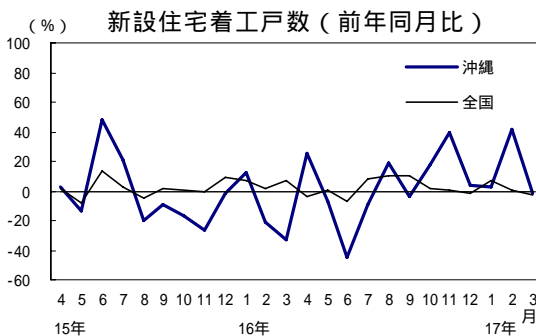
3. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。



(2) 住宅建設は大幅に増加している。

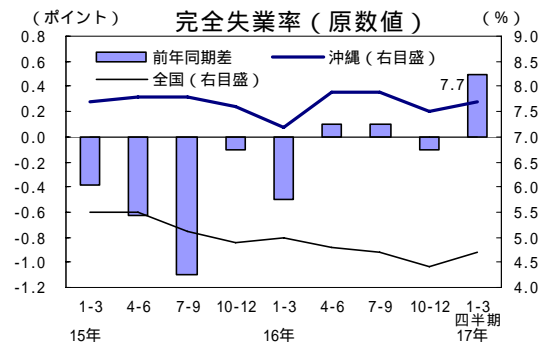
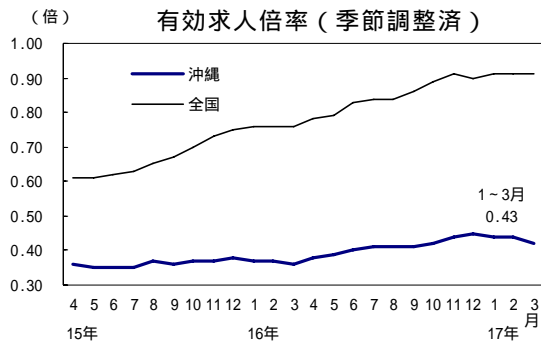
持家、分譲が前年を下回ったものの、貸家が上回ったことから全体でも大幅に増加している。

(3) 公共投資は16年度累計で見ると前年度を下回っている。



3. 雇用情勢等

- (1) 雇用情勢は依然として厳しい状況であり、持ち直しの動きが緩やかになっている。
有効求人倍率及び完全失業率
有効求人倍率はおおむね横ばいとなっている。完全失業率は前年同期を上回っている。



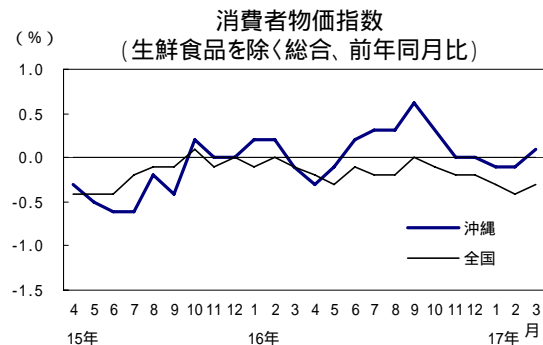
景気ウォッチャー調査 (4月)[雇用関連 (現状)]
「新年度に入っても表立った動きは無い(人事派遣会社)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

- (2) 企業倒産は、負債総額は減少しているものの、件数は横ばいとなっている。
4月に負債総額が大幅に増加している。

- (3) 消費者物価指数はおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	16年4-6月	7-9月	10-12月	17年1-3月	17年4月
倒産件数	20	25	20	18	5
(前年比)	41.2	28.6	16.7	0.0	66.7
負債総額	50	90	18	70	2
(前年比)	58.6	48.3	57.6	62.1	533.3



景気ウォッチャー調査 (4月)[合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

- 観光客が増加し、その分売上も少しずつ伸びている。景気も好転し、地元の購買力も後から良くなる(その他専門店[楽器])

<先行き>

- 前倒し傾向の採用活動は慎重に見なければならぬものの、景気をすぐさま阻害する要因は見当たらず、今後も求人は伸びる(学校[専門学校])

景気ウォッチャー調査 (合計)

